

第3章 区域計画

●第35回 緑区社会福祉大会

平成29年2月28日（火）、第35回緑区社会福祉大会が開催されました。

今大会より、耐震改修工事が終了した緑公会堂に会場が戻りました。当日は天候にも恵まれ、穏やかな雰囲気の中、日頃から地域で福祉・保健などの活動で活躍されている方々を中心に、391名の皆様にご参加いただきました。

【第1部】

第1部の式典では、緑区において永年にわたり、社会福祉活動に携わってこられた多くの団体や個人の方31名の功績に感謝し、地域福祉の一層の充実を図ることを目的に式典（表彰）が行われました。



＜▲式典（表彰）の様子＞

会場2階ホワイエでは、11地区の地区別計画の推進状況について、パネルと通信の展示が行われ、来場者に各地区の取組みが広く紹介されました。

＜▼地区別計画推進のパネル展示の様子＞



【第2部】

休憩を挟み、第2部がスタートしました。区域計画が地域福祉保健計画に新たに加わった今年度は、重点テーマでもある“日常적인見守り体制づくりに関する取組”にスポットをあて、区域で取組まれている活動紹介や今後の展望についてのパネルディスカッションが行われました。

＜▼緑区社会福祉大会チラシ＞

第35回 緑区社会福祉大会
 【日時】平成29年2月28日（火）
 午後1時30分から4時00分【会場】緑公会堂

☆開場：午後1時00分
 【第一部】式典（午後1時30分～2時20分）
 社会福祉功労者・金品預託者の表彰
 区内の社会福祉活動に貢献した個人・団体を表彰します。

【第二部】緑区地域福祉保健計画
 「みどりのわ・ささえ愛プラン」パネルディスカッション
 （午後2時30分～4時00分）
 区域計画重点テーマ①“日常적인見守り体制づくりに関する取組”
 「見守りの輪をつなげよう ～ゆるやかな見守り体制づくり～」

□第三期地域福祉保健計画の概要説明
 ■パネルディスカッション
 区域で展開している日常적인見守りに関する知な取組の紹介とこれからの展開について意見交換を行います。
 (パネリスト) 横塚博子氏 (緑区民生委員児童委員協議会会長)
 藤井千佳氏 (緑区主任児童委員代表)
 吉江清光氏 (読売センター長 長瀬田所長)
 市川 晴氏 (NPO法人教育支援協会地域教育事業部門長)
 岩澤彩子氏 (緑区障がい児児の支援
 みどりのわがげ あんしんマネジャー)
 (コーディネーター) 村井祐一氏 (みどりのわ・ささえ愛プラン推進委員会 産康 / 田原晴市 静岡大学 人間福祉学部 教授)

※事前申込み不要。参加費無料。手紙送致有。
 ※当日会場にて、「みどりのわ・ささえ愛プラン」における各地区の取組紹介のパネルの展示も行います。

【問合せ先】
 緑区社会福祉協議会 電話：931-2478 FAX：934-4355
 緑区福祉保健センター-福祉保健課事業企画担当
 電話：930-2304 FAX：930-2355



＜▲施設の販売の様子＞

また、今年度も区内10か所の障がい者施設・作業所の製品販売が行われました。

コーディネーターには、みどりのわ・ささえ愛プラン推進委員会の座長であり、田園調布学園大学教授の村井祐一氏、パネリストには、区域で活動されている5名の方をお迎えいたしました。



<村井コーディネーター>

①緑区民生委員児童委員協議会会長 横塚靖子氏

民生委員は、日頃より地域の方の見守り活動をしています。高齢者の孤独死や孤立化を防ぐため、サロンや会食会などの地域活動への参加の呼びかけをしています。住民支え合いマップ作成の取組をはじめ、地域課題をいち早くキャッチし、誰もが住みやすい地域づくりを進めています。

②緑区主任児童委員代表 藤井千佳氏

主任児童委員は、子どもの見守りを通じた活動をしています。日頃からのかわりがないとなかなか気づくことができない子どもとその家族の課題がたくさんあります。赤ちゃん訪問などをきっかけとして、若い世代が地域とのつながりをもてるよう、取り組んでいます。

③読売センター長津田 所長 吉江清光氏

読売センター長津田の新聞販売店では、事業所（企業）ができる地域の見守り活動をしています。販売店のエリアを中心とする活動範囲の中で、ちょっとした気づきがあった時には、該当する地域の方へ連絡をしています。また、配達スタッフ向けの研修として認知症サポーター養成講座が行われています。地域での見守り活動の必要性や認知症理解の啓発を行っています。



<左より：横塚氏、藤井氏、吉江氏、市川氏、岩澤氏>

④NPO法人教育支援協会 地域教育事業部門長 市川靖氏

NPO法人教育支援協会は、塾とは異なり、生活に困窮し支援が必要な世帯の子どもたちを対象とした学習支援を行っています。生活困窮状態とは、金銭的な困窮に限ったことではありません。“こころの貧困”と言う社会的な課題に対し、学習支援という手法を通じて取り組んでいます。

⑤緑区障がい者後見の支援室 みどりのこかげ あんしんマネジャー 岩澤彩子氏

「障がい者後見の支援室 みどりのこかげ」は、地域の中で障がいのある方が安心して生活ができるようにと、長期間継続的に見守り、支援をしていくための相談窓口です。障がいのある方の『親亡き後』を心配する声からできました。区内でも60名の方が登録し、制度の利用をはじめています。まだまだ知られていない制度ですが、地域とともに力を合わせて障がいのある方を支えていくことを目指しています。

今回のパネルディスカッションは、日常の見守り活動をテーマに行われました。

アンケートからも「地域全体での見守りが必要と感じた」や「住民支え合いマップに取り組んでみたい」というご意見をいただきました。



<▲会場の様子>